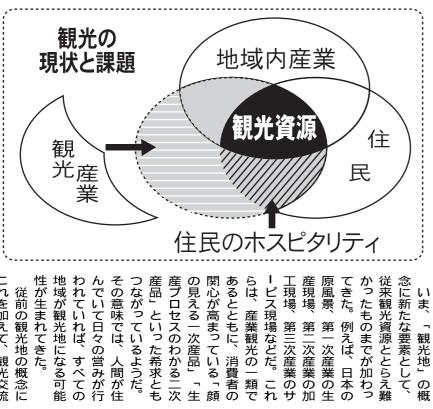
# 



かったものまでが加わっ

ら、問題点と課題を克服たプロセスを踏まえなが既存の観光地が歩んでき

日本の

する必要がある。

出そうとしているの中から共感や感

波

かにリンクさせていくの一点張りだったが、の一点張りだったが、

が、これ

ع ۱۱

第二次産業の加第一次産業の生

第三次産業のサ

· 交見

をプリセスのわかる二次 産品」といった希求ともこれでいて日々の営みが行ったがっているようだ。 やがままれて日々の営みが行ったが生まれてきた。 性が生まれてきた。 に対しているようだ。 は対が観光地になる可能に対すが生まれてきた。 に対しているようだ。 は対が生まれてきた。 の見える一次産品」「生関心が高まっている「顔あるとともに、消費者の らは、産業観光の一類で 上でス現場などだ。これ 上でス現場などだ。これ 産現場、第三次産業のサ 産現場、第二次産業のサ を選り、第二次産業の生 

第3種郵便物認可

వ్త こま、旅館やホテル、地域における観光産のできまり

と観光産業が一体化すると観光産業が一体化するとしても、消費しても、消費しても、消費しても、消費しても、消費している。 すれば、 ありき」 の発想だ。 りのまま」の日常空間が たが、ここでは地域の あ空間に身を置くことだっ

の日常空間がでは地域のあ まざまな面で起こと地域社会との乖い あったことは、観 が課題といえる。 経済に波及効果な 例えば、 も 

一般産業、観光産業、住観光の視点で区分すると地域社会の構成要素を の乖離も否定で きない。

地域としてこれらが実地域経済は活性化と拡大とき、産業観光に現したとき、産業観光に現したとが、新へと向かう。それが、新へと向かう。それが、新たな観光地の姿だ。

住民含む )地域 体感

を強めてきた結果として光地を除けば、非日常性 地域住民の一因だが、果の測定が 取り組みも必要だ。SITのニーズに応

で、地域社会からは観光で、地域社会からは観光で、地域社会からは観光屋さい。 を醸成してきたが、日常 を醸成してきたが、日常 を主ている。 ときに笑顔で答えるなど ときに笑顔で答えるなど ときに笑顔で答えるなど ときに笑顔で答えるなど ときに笑顔で答えるなど ときに笑顔で答えるなど ときに笑顔で答えるなど

にかかわる直接消費に視果は、多くの地域で観光と観光による経済波及効 間の研究機関などからさ通省||別項20年版)や民果は、観光白書(国土交果は、観光白書(国土交 だが、地域の経済されている。 地域の経済活動 えてこない。

に関連する施設に直接的 た テル、土産物店ほか観光 が地やその周辺で消費活動 で 大が、 大道で、 旅館やホッ が で が の 実際を考え な生産波及効果が生

増加したとすれば、観光と、仮に入込客が10万人円」をキーワードにする 財の流通や生産への波及用の増加をはじめ、消費い。10万人に対応する雇 ラスされるだけではな消費額が単純に20億円プ

税など地域の税収にも宣税、従事者の賃金と所得 用創出と事業所税や消費は、観光の経済波及効果につながる。につながる。

させる切り札といえる。 業の活性につながる観光 業の活性につながる観光 対しながる観光 バウンド策も重要だが、

にも貢献 を懸念する意味からイン齢化でパイの数が先細りは、少子・高観光産業

あげられる。 筆頭格として が波及効果の は、観光産業

地 域

**U**X

ア

ツ

す の経済波及効果として

であり、そうした直接効 であり、そうした直接効 でけったとらえ方・いわゆる 地域の観光消・円」といった説明を聞く。 が2万円で合計200億 でが2万円で合計200億 で

は がかかわっている。 燃料などさまざまな業種 がかかわっている、 連行 がかかわっている。

る間接的な 果の先にも

産者にまでつながっ

| 完結しない。前出地域の | この図式はそれだけで

員の所得増であり、それれる。端的にいえば従業 接間接にかかわった企業ラスされた20億円は、直 が観光と異なる日常的 やその従事者に、何らか れる。そして、地域にプ効果も当然ながら考えら ・ドバックさ

の形でフィ

人、1人平均の総消費額観光入込は年間100万いえる。例えば、当地の決検証されていない状況と 「観光白書」にみる国内旅行の経済効果

旅行消費 23.5兆円(国内産業への直接効果22.9兆円) 215万人

> 生産波及効果 付加価値誘発効果 雇用誘発効果

52.9兆円 28.3兆円 442万人

シリーズ 企画

commentary-1

わが国における旅行消費額については、平成15年度から国 土交通省「旅行・観光消費動向調査」を実施している。(以 「観光白書」平成20年版から抜粋)

最新の調査結果である平成18年度における国民の国内での 旅行消費額は、宿泊旅行が15兆6800億円(対前年42%減)、 日帰り旅行が4兆7400億円(同2.0%増)となった。

また、訪日外国人の国内での旅行消費額は、1兆3600億円 (同20.2%増)となり、訪日外国人数の増加に伴い、前年 度より大幅に増加した。

これらを合計した国内旅行消費額は、前年度より減少し23 兆5400億円(同1.4%減)と推計される。

上記の平成18年度国内旅行消費額23兆5400億円によるわが 国経済にもたらす直接的な経済効果は、直接の付加価値誘発 効果が11兆8800億円、雇用誘発効果が215万人と推計される。

さらに、この旅行消費がもたらす間接的な効果を含めた生 産波及効果は、52兆8900億円(国内生産額の5.6%)、付加 価値誘発効果は28兆3300億円(国内総生産(名目GDP)の 55%)、雇用誘発効果は42万人(全就業者数の69%)と推

わが国の旅行消費は、旅行・観光関連産業へ直接的な経済 効果をもたらすとともに、旅行・観光関連産業の雇用者によ る家計消費への刺激により、国内の幅広い産業へ生産波及効 果をもたらす。

平成18年度の旅行消費額の関連産業への直接的経済効果 運輸業6兆3800億円、宿泊業3兆6200億円等、観光に直 接関係する産業への効果が大きい。

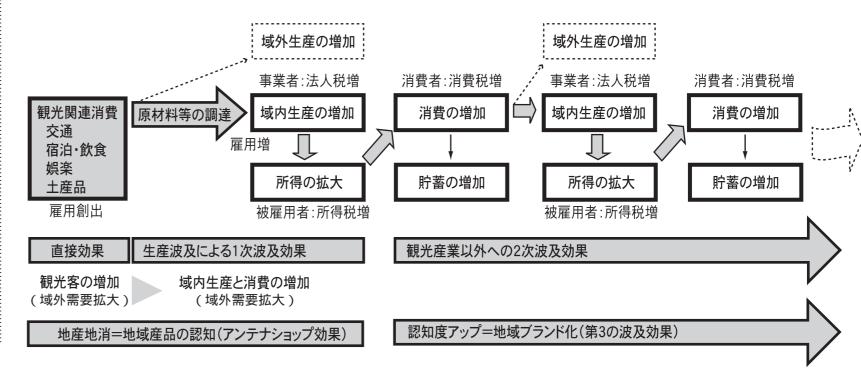
方、生産波及効果の推計によれば、上記の産業のほかで 農林水産業 1 兆2100億円、食料品産業 3 兆7400億円、飲 食店業2兆8700億円となっており、雇用誘発効果で見ると、 農林水産業51万人、小売業67万人と推計され、運輸業、宿泊 業のみならず、農林水産業や食料品・小売業等他産業への波 及効果も大きいことが分かる。

### 経済波及効果のイメージ

観光による地域経済の活性化は、さまざまな側面か らとらえられる。他の地域から訪れた観光客が交通、 宿泊や飲食、娯楽、土産品などで消費する直接的な経

済効果をはじめ、これらの関連事業者を介して地域の

物産が消費され、その生産に携わった事業者や流通に かかわる事業者にも波及効果が及ぶ。さらに、各事業 の従業員の所得を介して新たな消費行動を促し、地域 の経済が活性化される。一連の流れを検証した。



## 観光経済新聞の「地域経済を拡大させる方程式」

### 観光産業+地域内産業+住民=観光交流の拡大



住民ホスピタリティなければ観光地ではない地域内の一般産業も観光と無縁ではない観光関連事業者だけの観光産業ではない

観光資源とは、景勝地や名所旧跡だけではありません。 いま、求められているのは、ありのままの日常から得られる共感や感動です。 あるいは、日常の衣食住の生産プロセスを自ら確信し、安心することです。 そうした地域や場所が、観光客を呼び込み、地域経済が拡大します。

第1歩は、新たな観光資源づくりに向けた三位一体のコンセンサスです。 それは、3者が同じテーブルについて対話することから始ります。

#### 観光経済新聞におまかせください

永年、全国で観光地活性化座談会を展開した実績は、比類ないものです。 地域にふさわしい方向を、座談会によって導き出すお手伝いをします。

観光経済新聞社・産業観光活性化支援室 お問い合わせ TEL03-3827-9800 E-mail:info@kankokeizai.com

住んでよし、訪れてよしの郷土づくり「交流人口拡大が地域の シリーズ産業観光企画書 ブランド化を促進」を送付します。また、ご要望に応じて企画説明へ担当者派遣にも応じます。